

ジョージア国立公文書館に保存されている最古の写本は、4〜15世紀に書かれた教会文献・世俗文書8件のことである。その中には、アソムタヴリと呼ばれるジョージア文字の最古の字体で9世紀に書かれた福音書も含まれている。

ジョージア文字は、4世紀ごろにキリスト教が国教化された際、ギリシャ文字を基に作られたと考えられている。歴史的に2度、形を大きく変えたため、三つの字体が存在する。最も古いアソムタヴリ（ムルグ

ジョージア文字最古の写本（ジョージア）

時代を超え何層にも加筆

ロヴァニ）は直線と円弧の組み合わせで書かれる丸文字である。9世紀に現れたヌスフリ（目録文字）は現在でも教会文書で用いられることがある。その後、11世紀に現れたムヘドルリ（戦士文字、騎士文字）が現代まで使用されている。登録された文書には、10世紀に独特の表記法で旋律が記された讚美歌のジョージア語訳、異なる時代にわたって何層にも書き加えられた写本など39の文書類も含まれている。

これらは古代ジョージア文字で記された最古の写本として大変貴重であることから2015年に世界記憶遺産に登録された。

なお、ジョージア国内の文化空間でみられる「三書体のジョージア文字の生活文化」は、16年、世界無形文化遺産に登録されている。

~~~~~  
古代ジョージア文字で書かれた最古の手書きの文書（ジョージア国立公文書館提供）

